

首里杜まちづくり推進協議会 設立総会及び第 1 回協議会 議事要旨

日時：2022 年 9 月 21 日（水）14:00～16:00

場所：首里公民館 ホール

【設立総会】

■あいさつ(沖縄県土木建築部参事 高嶺)

県では、首里城復興基本計画の基本施策「新・首里杜構想による歴史まちづくりの推進」に基づき、議論を重ねて令和 4 年 4 月に「首里杜地区整備基本計画」を策定した。

歴史まちづくりの推進に向けては、地域、事業者、学術機関、行政などで構成される「首里杜まちづくり推進協議会」の設置が必要であり、地域、那覇市などの関係機関と調整を進め、本日を迎えることができた。

歴史まちづくりの推進について、地域や那覇市などの関係機関と連携し取り組んでいきたい。

■首里杜地区まちづくり推進協議会の設立について

協議会設立までの経緯、協議会要綱案や構成員などについて確認し、出席者全員の合意により、協議会が設立された。

【第 1 回協議会】

■開会あいさつ(首里地区まちづくり団体連絡協議会 與儀)

本協議会の開催を大変喜ばしく思うとともに、設立に関わった方々へ感謝申し上げる。

我々「首里社会議」では「50 年後、どんな首里のまちにしたいですか？」をテーマに、子や孫が「安心して心豊かな住みよいまちづくり」を「だれでも、そして小・中学生でも理解し、意見を述べることができる言葉」で表現し、提言してきた。これから 50 年先の首里のまちづくりと地域社会づくりについて検討・協議を重ね、希望に満ちた明るい首里のまちづくりを本協議会で深めていくことを期待している。

議事1. 令和 4 年度協議会の運営方針及び活動計画について

- 部会および今年度の中間検討の構成員をどう考えるか。
 - 協議会構成員から選定するが、具体的にはこれから検討。

議事2. 令和 4 年度の各主体の取り組み内容について

- 首里地域に入域する車両や観光客の適正容量の検討や、持続可能な観光文化都市に向けた地域住民の意向把握が必要ではないか。
- R3 年に公開された地域からの提言書では、「地域と訪問者が共につくり上げるサステナブルな地域交流ツーリズム」が掲げられている。本日示されている各主体の事業それぞれに対しての異論はないが、地域が求める地域交流ツーリズムを実現するためには、今後協議会の中で 50 年後の未来を見据え、具体的な仕組みを考えていくことが必要である。

- ロードマップには「循環バス、シャトルバス等の導入促進」があるが、今回は循環バスへの検討が取り上げられていない。循環バスは高齢者や観光客の細かなニーズに対応できるため地域にとって非常に効果の高い事業である。
 - 今年度すべての課題に対しての解決策の検討を進められるわけではないが、今後の協議会の中で取り組みを追加していきたい。
- 沖縄県交通政策課では交通事業者と連携して、EV バスの導入やルートの検討等を継続的に行っている。首里杜地区の公共交通の推進事業の中で協力していくことも可能である。
- 首里のまちづくりを考えるにあたっては、事業者を含めた各主体がいかに連携して取り組んでいくのが重要である。今回の資料で事業を色分けしているが、個別の事業主体が粛々と取り組んでいく事業と、協議会を通して各主体が連携して相乗効果を生み出していくような事業があり、連携して取り組む際に考慮する必要がある。

議事3. 交通・観光マネジメント計画に係るワークショップについて

<ワークショップに関して>

- ワークショップは今後のロードマップの進め方にも関わる。那覇市も関係各課で事務局等として参加支援していきたい。
- 周遊するターゲットの属性、発着点の想定、案内者の有無など、ワークショップ実施にあたり考えるべきことは多い。何を目指していくかを考慮して検討すべき。
- ワークショップでは周遊観光（街ぶら）の形をとりながら地域資源を抽出していけるとよい。子ども達や留学生等の目線から思わぬ資源発掘に繋がることもある。
- ワークショップで地域資源を抽出したり周遊マップを作成するのは悪いことではないが、今はその段階ではないように感じた。基本計画が策定された今、実行に移していくために何に取り組んでいくかが重要である。今は歴史的なまちなみの整備をどう進めていくか、道路や資源をどう整備するか具体的な検討を詰めていくべきである。そのような基礎調査を進めて、中間検討での議題としてほしい。
- バリアフリーの観点も踏まえ、車いす利用者でも最低限の周遊を可能にするための要整備箇所等の抽出を行ってほしい。
- ワークショップは「持続可能な首里のまちづくりに向けた検討」の一部である。指摘を踏まえて具体的な手法を検討したい。

<資源調査に関して>

- ワークショップを含む「持続可能な首里のまちづくりに向けた検討」と「地域資源調査」の関連づけをしっかりすべき。
 - 地域資源調査では既存資料を活用して未活用・未整備の資源を拾っておき、ワークショップでそれらをどのように活用していくのかを検討したい。
- 「地域資源の調査及び修景等」は県、那覇市の取り組みに分かれているが、連携して合理的に事業に取り組むことを検討してほしい。
- 首里では戦後、地域住民による簡易な資源整備が行われたが、そのまま活用・保全を行うには危険な箇所もあり、整備は不十分である。今回の地域資源調査にて未活用・未整備資源を全て拾い上げ、それに伴う整備予算の確保等ができれば大変喜ばしい。

- 未活用資源の拾い出しの1例として、大中町の大和井戸（ヤマトガー）が好例である。首里にはこうした文化財ではなくても地域にとって重要な資源が点在しているが、一般的な資源調査では見落とされることがある。調査の際には住民の方々と意見交換を行いながら、資源の意味や重要性を確認してほしい。そうして抽出した資源を、10年スパンで丁寧に修景していくことが協議会の役割だろう。

その他

<協議会のあり方について>

- 協議会の体制が重要な課題であるので、体制づくりをテーマにした部会の発足も視野に入れながら、協議会において体制づくりを議題とする等、体制づくりを進める取り組みが必要。
- 首里社会議の中であった「首里こそが、今後の歴史文化観光地域としてのあり方をリードしていく」というような気概が重要である。個別主体が着々と進めていく事業のチェックの他に、自らが打って出るような形も協議会の中では必要ではないか。
- 訪問者と共に地域をつくっていくことを目指すならば、外部からその地域に愛着を持って訪れるいわゆる応援隊、関係人口というような人々にも協議会に参加できるような外部とのネットワークを用意してはどうか。その中で、冒険的な議論を行えるようになる等、もう少し協議会が楽しい場になることが望ましい。現状のままでは既視感のあるような計画になってしまうことが懸念される。
- 本協議会では参加メンバーの様々な知恵を活かしながら、形式的な開催にこだわらず、古都首里をどのようにつくっていくかを議論したい。歴史文化観光地域として他の市町村の参考例になるような行動を起こしていきたい。

■閉会あいさつ(那覇市都市みらい部副部長 浦崎)

「首里杜まちづくり推進協議会」については、新・首里杜構想による歴史まちづくりを推進するために、多様な構成員の活発な議論・協議が交わされる重要な場であると認識している。

首里杜地区においては、古都首里を感じられる景観形成、歴史・文化資源の保全・整備・活用、暮らしと観光が両立した住みやすく魅力的なまちづくりを進める必要がある。

地域が目指す将来像の実現のため、那覇市としても庁内検討チームを立ち上げており、本協議会の協働のもと、歴史と文化が薫る首里杜地区のまちづくりを進めていく。

以上